

(電子メール施行)
農 技 第 1554 号
令和5年8月10日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第6号を下記のとおり発表します。

ハイマダラノメイガの多発傾向がみられています。本種は、アブラナ科野菜の生育初期に生長点付近を食害し、深刻な被害を与えるため、育苗期や定植後の防除対策を徹底するよう指導願います。

令和5年度 病虫害発生予察防除情報 第6号
「ハイマダラノメイガの発生状況と防除対策について」

- 1 対象作物 アブラナ科野菜（キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、ダイコン等）
- 2 病虫害名 ハイマダラノメイガ（別名：ダイコンシンクイムシ）
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生状況について

(1) 県立農林水産技術総合センター（加西市）で実施しているハイマダラノメイガの誘致植物^{※1}（クレオメ）による調査において、7月第3週以降、花枝^{※2}への寄生率が平年より高くなり、8月にはいつてからは急増している（図）。8月第2週（8月9日）の寄生率は53.8%となり、平年（30.1%）を上回り、過去に多発した3箇年（2020年、2021年、2022年）とほぼ同等である。

(2) 大阪管区気象台の近畿地方の1カ月予報（8月10日発表）によると、気温は平年より高く推移すると予想されており、本種の増殖に好適な条件であることから、発生はさらに増加すると考えられる。

(3) 今後、野菜類の育苗や本圃^ほへの定植（ダイコン等の直播栽培を含む）の盛期となることから、対象作物での被害が拡大することが懸念される。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

5 本種の特徴について

本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。成虫(写真1)は体長約10mmで、生長点付近に1~数卵ずつ産卵する。幼虫は、作物の育苗期~本圃栽培初期では、生長点(芯部)付近に食入し、葉を綴り合わせて食害する。

生育初期に加害されると成長が止まり(写真2、3)、キャベツ等の結球野菜では結球しなくなり(写真4)、商品価値を失うため、1頭でも株に存在すれば減収につながる。

6 防除上の留意点

- (1) 加害を確認してからの対策では手遅れとなるので、発生盛期である8月中旬~9月下旬頃に育苗や播種・定植をする場合は、予防的防除に努める。
- (2) 寒冷紗^{しや}や防虫ネット、不織布による被覆は、成虫の飛来・産卵防止に効果がある。防虫ネットの目合いは、2mm×4mm以下で十分な防除効果が得られる。被覆資材の利用にあたっては、内部が高温になりすぎないように注意する。成虫は夜間に活動(産卵)するので、黄色灯の利用も飛来・産卵防止効果が期待できる。
- (3) 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の降雨などの条件により、十分な効果が得られないこともあるので、本圃での発生状況に注意して、必要に応じて薬剤散布を実施する。
- (4) 薬剤を使用する場合、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を遵守する。

(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

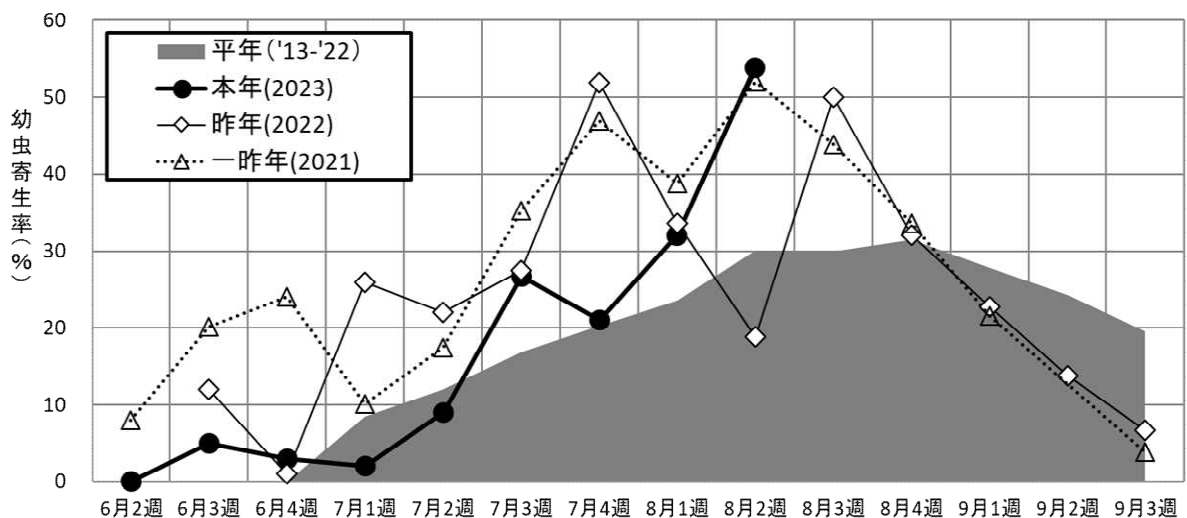


図 誘致植物(クレオメ)の花枝におけるハイマダラノメイガ寄生率の推移

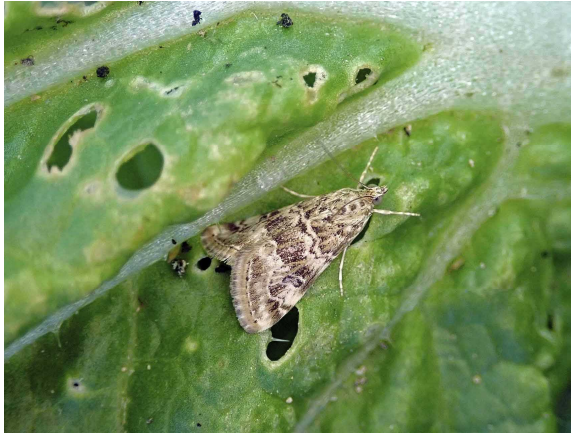


写真1 ハイマダラノメイガ成虫
(体長は約10mm)



写真2 生育初期のダイコン被害株



写真3 定植直後のキャベツ被害株
(生長点付近が加害される)



写真4 結球前のキャベツ被害株
(正常に結球しない)

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

(<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。

発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)



問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222